

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 25日は、前線が三陸沖から本州南岸付近へのび、前線上の低気圧が西日本南岸付近へ進む。
- 26日は、高気圧がオホーツク海へ移動する。前線が日本の東から日本の南へのび、低気圧が東日本の南東海上へ進む。
- 27日から28日は、前線が日本の南から東シナ海へのび、前線上を低気圧が東進する。
- 3月1日は、低気圧が日本の東へ進む。

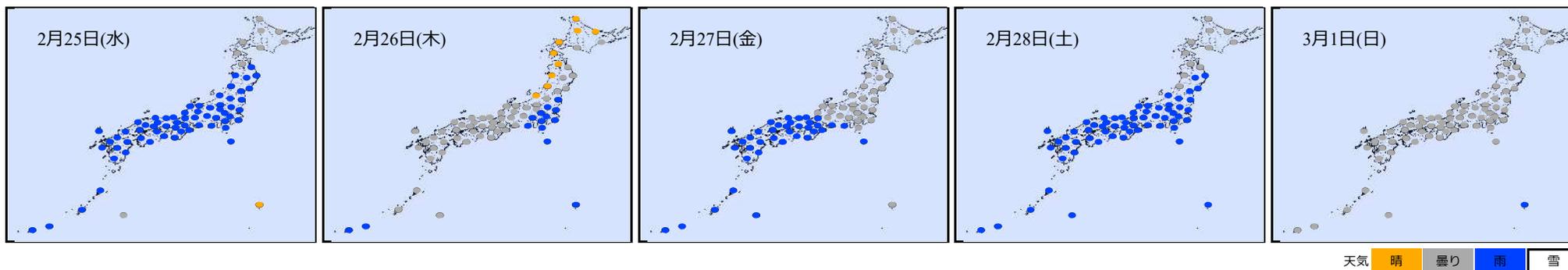
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

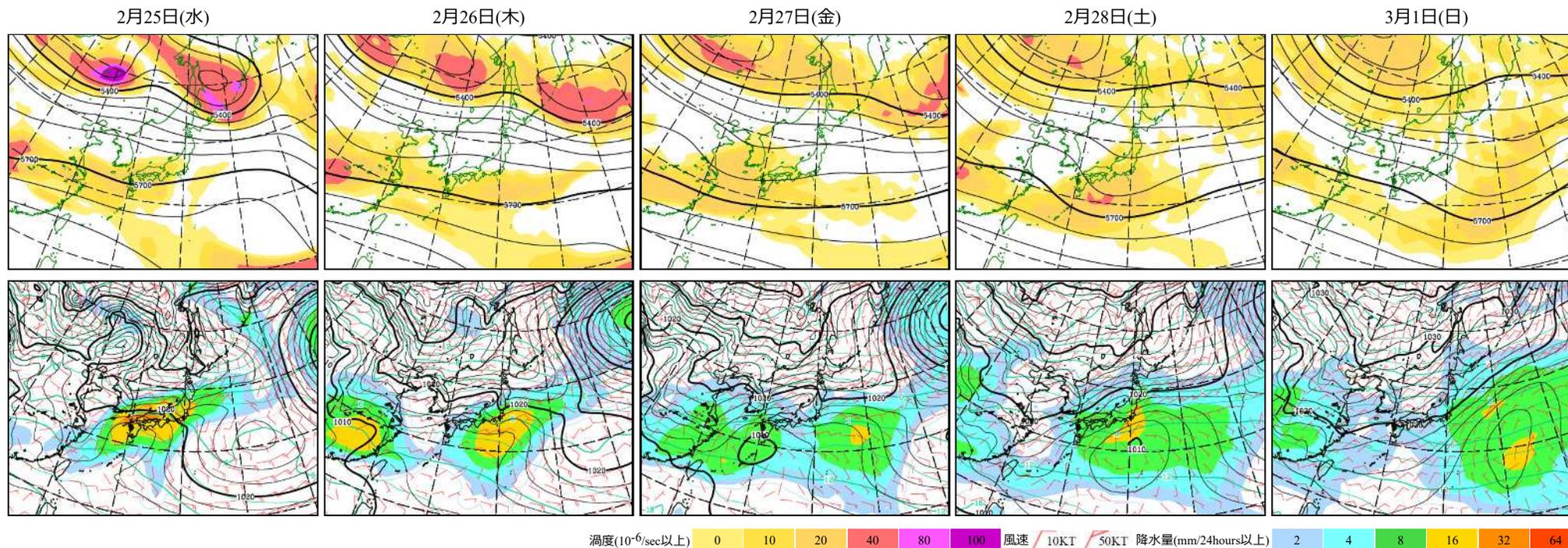
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

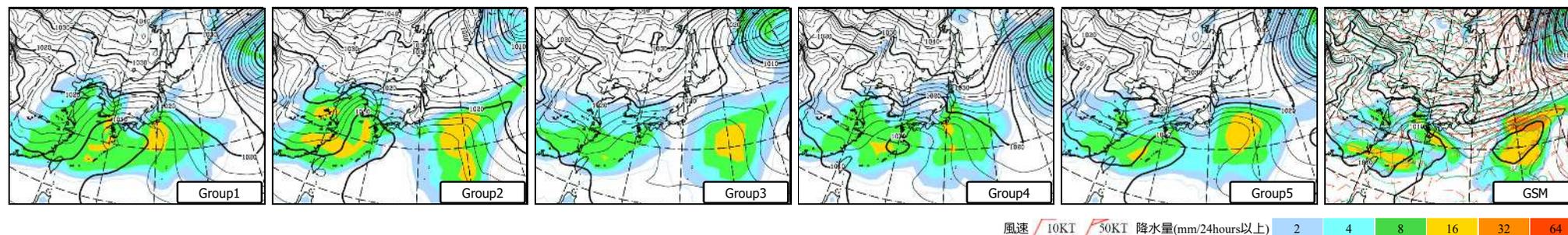


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、26日は晴れる所がある。
- 東日本と西日本、沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間を通して日本付近の高度場が下がり、28日は日本付近のトラフが深くなった。地上は、26日は東日本の南東海上の低気圧が明瞭となり、東日本太平洋側の降水確率が大きくなった。
- 各モデルとも、初期値変わりが大きいのが、25日と27日から28日に本州南岸または日本の南を低気圧が東進する予想をしているモデルが多い。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、各特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- 28日頃は、日本海や三陸沖に発達する低気圧を予想するメンバーがみられるため、北日本付近は予報が大きく変わる可能性があることに留意。